

手をつなごう2008

平成21年1月26日
岡山県立東備養護学校
支援部だよりNO. 23

いよいよ最終回!

コーディネーター講座④

1月22日(木) 15:30~



桜花学園大学の奥田健次先生

にはるばる名古屋から3回もお出でいただいたこの講座、いよいよ最終回を迎えました。

今回は「A君が5分以内に更衣ができるようになるための取組」の事例を発表しました。前回の事例(NO.19)でもご紹介したタコ足ダイアグラムを使って「問題行動(うろうろする)」のABC分析、「望ましい行動(着替えをする)」のABC分析をそれぞれ行い、原因推定と解決策を次のように考え取り組みました。

原因	解決策
いろいろな物が見えて集中できないから	・パーティションで仕切って個別スペースを作る。 ・連絡帳・水筒などの置き場を再検討する。 ・目に入る物を限定する。(デジタルタイマー、更衣の手順書、更衣のカゴ)
わかりにくいから(着替えの順番、どれくらい更衣に時間がかかっているか)	・手順書の作成(個別スケジュールと同じ形式) ・「脱ぐ-着る-たたむ」活動の流れを徹底する。 ・よい行動(○)とよくない行動(×)を伝える。 ・時間を意識させるためのタイマーの導入 ・「はやく」や「急いで」を意識させるための声かけ
注目を得ることができるから	・うろうろできないようにブロックする。 ・できたら大いなる賞賛。

その結果、うろうろする行動は減少し目標を達成することができました。また、自分から更衣場所に行って教師がタイマーを出すのを待つようになったり、教師がタイマーを指ささなくても、見ながら更衣をすることが増えてきたりしました。

奥田先生からは「初めから自発性・主体性を期待してもうまくいかない。見守るばかりでなく積極的な指導支援を」というアドバイスをいただきました

た。また、徐々に指導・支援のフェードアウトを考えていくことが大切。フェードアウトのポイントとしては 達成基準を作って計画的に スモールステップでという2点を教えていただきました。また、(お子さんのタイプにもよるが)計画的に失敗体験をさせることも大切ということでした。指導助言の後には付録のお話もしていただき、大変有意義な研修ができました。

アンケートより

- 「待つだけでは何も変わらない」はいつも思っていることですが奥田先生のお話をお聞きする度に思いを強くしました。応用行動分析とまではいかないかもしれませんが、先を見て計画的に子どもたちに接していきたいと思っています。(小学校)
- 先生との出会いを感謝したいと思います。事例を見ながらの具体的な手立ては本当に分かりやすく良かったです。言葉に感わされず、その子のなっって欲しい姿を実現させるために頭を働かせようと思います。(中学校)
- 分かりやすく(ストレートなお話で)聞いていて自分の中にはずっと入ってきました。具体的な事例を見て、そこを自分に置き換えて考えていけることはとても自分の中に残っています。通常保育の中で自閉症児だけでなく他の幼児にも生かしていけるといいのかなと思いました。ダメもとで、奥田先生のこのような会を園に戻って交渉したいと思っています。(いつか実現できるように…)(幼稚園)

